

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

数値はすべて公立学校のもの

1 結果のポイント（◇：成果，◆：課題）

小学校：算数A（知識）

全問題数：15問（選択式7問・短答式8問・記述式0問）

◇平均正答率81（選択式80.6・短答式80.7）で、6年連続で全国平均を上回っている。

◇正答率は11問が全国平均を上回っている。（2問が同率）

◇無解答率は14問が全国平均を下回っている。

◇領域別・観点別正答率はすべての項目で全国平均を上回っている。

◆課題のある問題（本県平均正答率、全国平均正答率がともに70%を下回った問題）

- ・示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ問題
- ・二次元表の合計欄に入る数を書く問題

算数A		県	全国との差
全体		81	
領域別	数と計算	82.8	2.2
	量と測定	70.1	1.3
	図形	82.9	1.8
	数量関係	81.6	2.0
観点別	数量や図形についての技能	80.3	2.6
	数量や図形についての知識・理解	80.9	1.2

小学校：算数B（活用）

全問題数：11問（選択式3問・短答式3問・記述式5問）

平均正答率46（選択式54.3・短答式62.3・記述式31.4）

◇選択式・短答式は全国平均を上回っている。

◆記述式は全国平均を0.2下回っている。

◇正答率は11問中6問が全国平均を上回っている。（H28は1問）

◇無解答率は9問が全国平均を下回っている。

◆領域別では「量と測定」「図形」が全国平均を下回っている。

◆観点別では「数量や図形についての知識・理解」が全国平均を下回っている。

◆課題のある問題（本県平均正答率が全国平均正答率を下回った問題）

- ・小さい封筒で手紙を送る場合と大きい封筒で手紙を送る場合の、料金の差の求め方と答えを書く問題
- ・13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く問題
- ・飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を選ぶ問題
- ・仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題
- ・与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く問題

算数B		県	全国との差
全体		46	
領域別	数と計算	53.2	0.4
	量と測定	44.5	-2.5
	図形	12.6	-0.6
	数量関係	40.0	0
観点別	数学的な考え方	45.6	0.2
	数量や図形についての知識・理解	48.4	-0.2

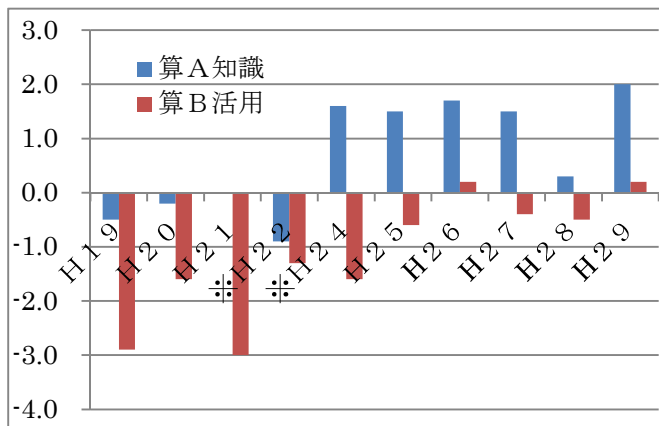
児童質問紙

質問項目	平成27年度	平成28年度	平成29年度
算数の勉強は好きですか。 （肯定的評価をした児童の割合）	大分県 65.4 全国 66.6	大分県 64.0 全国 66.0	大分県 63.0 全国 65.9
算数の授業の内容はよく分かりますか。 （肯定的評価をした児童の割合）	大分県 79.6 全国 81.0	大分県 77.9 全国 80.2	大分県 78.5 全国 80.6

経年比較

- ◇A問題はH24より5年連続で全国平均を上回っている。
- ◇B問題はH26に続いて全国平均を上回ることができた。

※ グラフは全国平均正答率を0.0とし大分県平均正答率との差を示したもの。
H22, H24は抽出調査。



2 課題が見られた問題と指導改善のポイント

小学校：算数A

【大分県平均正答率、全国平均正答率は公立の生徒の割合 (%)】

示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶ問題

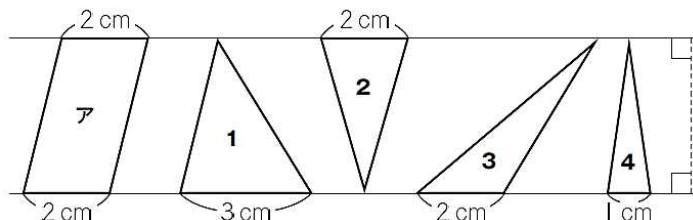
【大分県平均正答率 69.5% 全国平均正答率 67.0%】

(趣旨) 高さが等しい平行四辺形と三角形について、底辺と面積の関係を理解しているかどうかみる。

5

平行な2本の直線を使って、平行四辺形や三角形をかきました。

下の1から4までの三角形の中で、平行四辺形アの面積の、半分の面積であるものはどれですか。すべて選んで、その番号を書きましょう。



解答類型		大分県平均正答率	全国平均正答率
正答 2、3と解答しているもの		69.5%	67.0%
誤答	2と解答しているもの 【高さは図形の内部にのみあるものと捉えていると考えられる】	7.6%	9.3%
	上記以外の解答 (例) 2、4と解答しているもの 【三角形の面積(「底辺×高さ÷2」で求めることができる面積)が平行四辺形の面積(「底辺×高さ」で求めることができる面積)の半分であることは理解できていないと考えられる】	22.2%	22.4%
	無解答	0.7%	1.3%

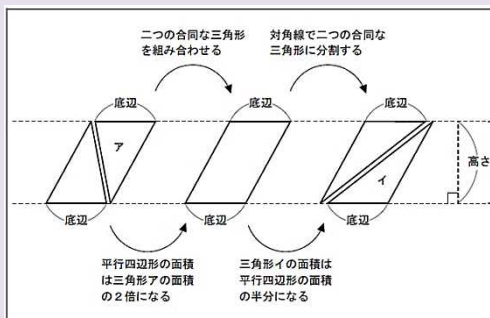
【授業改善のポイント】

図形を構成する活動を通して、平行四辺形と三角形の面積の関係を理解できるようにする。

○ 底辺の長さが高さがそれぞれ等しい平行四辺形と三角形においては、図形の向きや形に依存せず、三角形の面積は平行四辺形の面積の半分であることを理解できるようにすることが大切である。

指導に当たっては、例えば、下のように、二つの合同な三角形を組み合わせた時、平行四辺形を対角線で二つの合同な三角形に分割したりすることで、三角形と平行四辺形の面積を比較し、三角形アと三角形イの面積が等しくなることを説明する活動が考えられる。その際、平行四辺形の面積を求める式と三角形の面積を求める式を比較し、三角形の面積を求める式にある「÷2」の意味を確認することが大切である。

このような活動を通して、面積を求める式と具体的な図の併用で、高さを固定した平行四辺形や三角形について、面積の求め方の理解を深めることも大切である。



二次元表の合計欄に入る数を書く問題【大分県平均正答率 67.4% 全国平均正答率 62.8%】

(趣旨) 資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる。

9

家でイヌやネコを飼っているかどうかを、13人に聞いて、下のように記録しました。

左の記録を下の表にまとめます。

飼っている動物調べ

出席番号	イヌ	ネコ
1	○	×
2	×	×
3	○	×
4	○	○
5	○	×
6	×	×
7	○	×
8	×	×
9	○	○
10	×	○
11	○	×
12	×	×
13	○	×

○…飼っている
×…飼っていない

飼っている動物調べ (人)

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	ア	イ	
	×	ウ	エ	
合計				オ

○…飼っている
×…飼っていない

(2) 上の表の **オ** にあてはまる数を書きましょう。

解答類型		大分県平均正答率	全国平均正答率
正答	13と解答しているもの	67.4%	62.8%
誤答	26と解答しているもの 【家でイヌやネコを飼っているかどうかを調査した人数の13を2回たしていると考えられる】	11.4%	12.3%
	上記以外の解答(例) 12という解答	17.2%	19.8%
	無解答	4.0%	5.1%

【授業改善のポイント】

合計欄の意味を理解し、資料を的確に分類整理できたかどうかを判断することができるようにする。

○ 二次元表に示された数値が適切なものであるかどうかを確かめる方法の一つが、「合計」の数値に着目することである。そのためにも、二次元表の合計欄の意味を理解することが大切である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、二次元表の合計欄の数値と調査した人数を比較する場を設けることが考えられる。その際、合計欄の数値を26にした場合を取り上げて、そのように判断した理由について話し合い、合計欄に入る数値が調査した人数と一致することを確認することが大切である。また、例えば、右のように、資料を二次元表に分類整理する過程を振り返りながら、合計欄の数値について確認する活動が考えられる。なお、合計欄に13と書き入れてから二次元表に分類・整理する活動も考えられる。

飼っている動物調べ (人)

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	2	6	8
	×	1	4	5
合計				

↓

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	2	6	8
	×	1	4	5
合計		3	10	

↓

		ネコ		合計
		○	×	
イヌ	○	2	6	8
	×	1	4	5
合計		3	10	13

- ・イヌを飼っている人数の合計とイヌを飼っていない人数の合計を記入する。
- ・イヌを飼っている人数の合計の8とイヌを飼っていない人数の合計の5をたすと、 $8 + 5 = 13$ で、13人であることを確認する。

- ・ネコを飼っている人数の合計とネコを飼っていない人数の合計を記入する。
- ・ネコを飼っている人数の合計の3とネコを飼っていない人数の合計の10をたすと、 $3 + 10 = 13$ で、13人であることを確認する。

- ・「イヌを飼っている人数の合計の8とイヌを飼っていない人数の合計の5をたした数」と「ネコを飼っている人数の合計の3とネコを飼っていない人数の合計の10をたした数」が、合計欄に当てはまる数の13と一致していることを確認する。
- ・調査した人数と合計欄の数値が一致することを確認する。

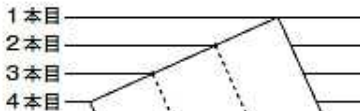
13本の直線を使う場合、手紙の用紙の長い辺を3等分するのは、何本目の直線と交わった点かを書く問題 【大分県平均正答率 27.0% 全国平均正答率 27.4%】

(趣旨) 直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができるかどうかをみる。

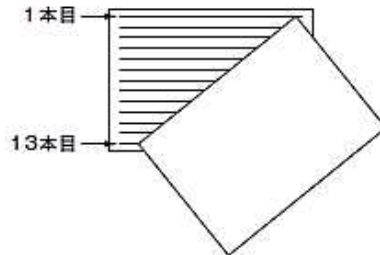
2 (2)

3等分する点を見つける方法

- ① 同じはばに並んだ4本の平行な直線の、1本目の直線と4本目の直線に手紙の長い辺の両はしをあわせる。
- ② 2本目、3本目の直線と手紙の長い辺が交わった点が、手紙の長い辺を3等分する点になる。



手紙の用紙には、同じはばに並んだ13本の平行な直線がひかれています。ゆりえさんは、手紙を3つに折るために、もう1枚の手紙の用紙を使おうと考えました。そして、下の図のように、1本目と13本目の直線に手紙の両はしをあわせて、3等分する点を見つけました。



(2) 13本の直線のうち、手紙の長い辺と交わった点が、その辺を3等分する点になるのは、上から何本目と何本目の直線ですが、答えを書きましょう。



同じはばに並んだ直線を4本使うと、直線と直線の間が3つになるので、3等分する点を見つけることができるんですね。

解答類型		大分県平均正答率	全国平均正答率
正答	上から5本目と9本目と解答しているもの	27.0%	27.4%
誤答	上から4本目と8本目と解答しているもの 【手紙の長い辺を3等分する点の、点どうしの間が4行ずつになることは理解しているが、その間の数を直線の数に直して表現することはできていないと考えられる】	18.1%	18.0%
	上記以外の解答(例) 上から5本目と10本目と解答しているもの 【1本目の3等分する直線は、上から1本目の直線から、4行空けたところの5本目の直線になると判断することはできているが、2本目の3等分する直線は、5本目の直線の2倍である10本目の直線と捉えていると考えられる。】	49.6%	48.6%
	無解答	5.3%	6.0%

【授業改善のポイント】

日常生活の問題の解決のために、示された方法を問題場面に適用することができるようにする。

○ 日常生活の問題の解決のために、示された方法を解釈し、その方法を問題場面に適用することができるようにすることが大切である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、右のように、3等分する点を見つける方法を、言葉や数、式、図などに対応させながら解釈する活動が考えられる。その際、直線の数とその間の数を図を用いて明確にし、間の数が直線の数より1少ないという関係を捉えることができるようにすることが大切である。また、手紙をなるべくきれいに三つに折るために、3等分する点を見つける方法が適用することができるかどうかを考察し、実際に13本の直線を使って手紙を折る活動を通して、日常生活の問題の解決のために、算数が役立っていることを実感できるようにすることも大切である。

3等分する点を見つける方法

- ① 同じはばに並んだ4本の平行な直線の、1本目の直線と4本目の直線に手紙の長い辺の両はしをあわせる。
- ② 2本目、3本目の直線と手紙の長い辺が交わった点が、手紙の長い辺を3等分する点になる。

3等分する点を見つける方法の解釈
同じ幅に並んだ直線を4本使う。直線と直線の間が3行になる。だから、3等分する点を見つけることができる。

3等分する点を見つける方法の適用
同じ幅に並んだ直線を13本使うので、直線と直線の間が12行になる。12行を3等分すると、 $12 \div 3 = 4$ だから、手紙の長い辺を3等分する点どうしの間は4行ずつになる。上から1本目の直線から、4行空けたところの直線は5本目になる。さらに、4行空けると9本目になる。

仮の平均の考えを活用して、測定値の平均を求める問題

【大分県平均正答率 22.8% 全国平均正答率 26.1%】

(趣旨) 仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を、言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる。

3 (2)

【かずやさんの平均の求め方】を聞いたはるなさんは、次のように考え

かずやさんは、平均を求める計算を簡単にするために、7 mをこえた部分に着目し、次のように平均を求めました。

【かずやさんの平均の求め方】

7 mをこえた部分の平均を求めます。
 $(52 + 31 + 54 + 20 + 43) \div 5 = 40$
 7 mに、求めた平均の40 cmをたします。
 車が進んだきよりの平均は、7 m 40 cmです。



7 mのかわりに、7 m 20 cmをこえた部分に着目しても、平均を求めることができます。

(2) 7 m 20 cmをこえた部分に着目した平均の求め方を、言葉や式を使って書きましょう。

	解答類型	大分県平均正答率	全国平均正答率
	(正答の条件) 次の①, ②, ③の全てまたは①, ②または①, ③を書いている。 ① 7 m 20 cmとの差の部分の平均を求める式や言葉 ② 基にした 7 m 20 cmに、求めた平均の20 cmをたすことを表す数や言葉 ③ 車が進んだ距離の平均が、7 m 40 cmになることを表す数や言葉 (正答例) 7 m 20 cmをこえた部分の平均を求めます。 $(32 + 11 + 34 + 0 + 23) \div 5 = 20$ もとにした 7 m 20 cmに、求めた平均の20 cmをたします。車が進んだきよりの平均は、7 m 40 cmです。	22.8%	26.1%
誤答	①を書いているもの 例 $(32 + 11 + 34 + 0 + 23) \div 5 = 20$ 【7 m 20 cmをこえた部分の平均のみを記述していると考えられる。】	8.4%	9.9%
	7 mを基準として記述しているもの 【仮の平均を用いた考えを解釈し、基準とする数値が7 mから7 m 20 cmに変わったことを捉えることができずに、問題に示されている『かずやさんの平均の求め方』をそのまま記述していると考えられる。】	20.6%	17.7%
	7 mと7 m 20 cm以外を基準にして記述しているもの	10.4%	8.6%
	上記以外の解答(例) $(32 + 11 + 34 + 20 + 23) \div 5 = 24$ 7 m 20 cmに求めた24 cmをたします。 平均は7 m 44 cmです。 【基準とする数値が7 mから7 m 20 cmに変わったことを捉えることはできているが、仮の平均を用いた考えを解釈し、4回目に測定した車が進んだ距離の7 m 20 cmと、基準とする数値の差を、0 cmと捉えることはできていないと考えられる。】	25.0%	25.0%
	無解答	12.8%	12.7%

【授業改善のポイント】

測定値の平均を工夫して求めるよさを実感できるようにする。

○ 測定値の平均を求める際は、平均がおよそどのくらいになるのかを見積もったり、能率的に処理するために工夫して計算したりすることが大切である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、測定値の結果をそのまま使って平均を求める場合及び7 mを基準として平均を求める場合について考察した後、右のように、7 m 20 cmに基準を変えて考察する活動を設けることが考えられる。その際、グラフ、式、言葉などを関連付けて式の中の数の意味を解釈し、説明する活動が考えられる。

このような活動により、仮の平均の考え方を活用することで、平均を工夫して処理することができる場合があることを実感できるようにすることが大切である。

③ $(32 + 11 + 34 + 0 + 23) \div 5 = 20$ で、20 cmです。だから、7 m 40 cmです。

32や11は何を表している数ですか。

それぞれの記録の7 m 20 cmをこえた部分(斜線)です。

だから、4回目の記録は0になるんですね。

④の位置に来るまで輪ゴムをのばしたときの記録

なぜ、7 m 20 cmをこえた部分の平均を求めたのですか。

5回の記録のうち、最も短い距離の7 m 20 cmを基準にすると、平均を求めるときの式の中の数を小さくすることができるからです。

与えられた情報から、基準量、比較量、割合の関係を捉え、「最大の満月の直径」に近い硬貨を選び、選んだわけを書く問題【大分県平均正答率 12.6% 全国平均正答率 13.2%】

(趣旨) 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる。

5 (2)

月は、地球のまわりを回りながら、地球に近づいたり、はなれたりしています。月の大きさは実際には変わりませんが、月が地球に最も近づいたときに、最も大きく見え、地球から最もはなれたときに、最も小さく見えます。

地球から見える満月を円とみて、最も大きく見えるときの見かけの直径を「最大の満月の直径」、最も小さく見えるときの見かけの直径を「最小の満月の直径」ということにします。

「最大の満月の直径」と「最小の満月の直径」を比べたとき、「最小の満月の直径」をもとにすると、「最大の満月の直径」は約14%長いです。

月の直径を、硬貨の直径に置きかえて考えます。

1円玉、100円玉、500円玉の直径は、それぞれ下のとおりです。

硬貨の種類とその直径

1円玉	100円玉	500円玉
		
20mm	22.6mm	26.5mm



最も小さく見えるとき
(イメージ)



最も大きく見えるとき
(イメージ)

(2) 「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」をもとにして14%長くなっている「最大の満月の直径」は、100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の1と2から選んで、その番号を書きましょう。

また、選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを、言葉や式を使って書きましょう。

- 1 100円玉
- 2 500円玉

解答類型		大分県平均正答率	全国平均正答率
(正答例) 『番号』 1 『わけ』 最大の満月の直径は $20 \times 1.14 = 22.8$ で、22.8mmです。100円玉の直径との差は $22.8 - 22.6 = 0.2$ で、0.2mmです。500円玉の直径との差は $26.5 - 22.8 = 3.7$ で、3.7mmです。100円玉の直径との差のほうが小さいので、100円玉のほうが近いです。 (正答例) 『番号』 1 『わけ』 1円玉の直径をもとにしたとき、100円玉の直径の割合は $22.6 \div 20 = 1.13$ です。500円玉の直径の割合は $26.5 \div 20 = 1.325$ です。1.13と1.325で、割合が1.14に近いのは、1.13の100円玉です。だから、100円玉のほうが近いです。 (正答例) 『番号』 1 『わけ』 「最大の満月の直径」を100円玉の直径とすると、「最小の満月の直径」は $22.6 \div 1.14 = 19.8$ で、約19.8mmです。「最大の満月の直径」を500円玉の直径とすると、「最小の満月の直径」は $26.5 \div 1.14 = 23.24 \dots$ で、約23.2mmです。1円玉の直径との差は、それぞれ、 $20 - 19.8 = 0.2$ 、 $23.2 - 20 = 3.2$ です。「最大の満月の直径」を100円玉の直径としたときのほうが、「最小の満月の直径」は1円玉の直径に近いです。だから100円玉のほうが近いです。		12.6%	13.2%
誤答	(解答例) 『番号』 1 『わけ』 $22.6 - 20 = 2.6$ $26.5 - 20 = 6.5$ 14%は小数に直すと0.14だから、2.6のほうが0.14に近いです 【それぞれの硬貨の直径の長さで、14%が0.14であることを捉えることはできているが、「最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときに、「最小の満月の直径」を基にして14%長くなっているものが「最大の満月の直径」であることを捉えることができずに、硬貨の直径のみに着目して差を求め、その差と割合を比較していると考えられる。】	33.3%	33.1%
	(解答例) 『番号』 2 『わけ』 $20 \times 0.14 = 2.8$ 100円玉の直径をcmに直すと、2.26cm 500円玉の直径をcmに直すと、2.65cmだから、500円玉のほうが近いです。 【最小の満月の直径」を1円玉の直径としたときの「最大の満月の直径」に当たる値を求めるためには、1円玉の直径の長さに割合をかければよいことを捉えることはできているが、「14%長い」という表現から、比較量が基準量の114%と捉えることはできずに、基準量の14%を求めて比べていると考えられる。】	45.3%	42.3%
	上記以外の解答	2.8%	2.7%
	無解答	6.0%	8.7%

【授業改善のポイント】

身近なものに置き換えたときの基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え、判断の理由を数学的に表現することができるようにする。

○ 日常生活の中には、算数で学習したことを活用して、数理的に処理し合理的に判断できる場面がある。日常生活の事象を、割合を活用して数学的に解釈するためには、数量の関係を身近なものや図などに置き換えて、基準量・比較量・割合の関係を的確に捉え判断することが大切である。また、判断した理由や問題を解決した過程を数学的に表現することができるようにすることも大切である。

指導に当たっては、例えば、本設問を用いて、「最小の満月の直径」を1円玉の直径に置き換えていること、さらに、1円玉の直径が基準量であることを捉え、「最小の満月の直径」を基にして14%長くなっている「最大の満月の直径」が比較量であることを確認する活動が考えられる。その上で、100円玉と500円玉のどちらが比較量に近いかを判断する際には、「基準量の○%」と「基準量の○%増加・減少」の違いを図で表現し比較する活動が考えられる。また、選んだ硬貨の直径の方が近いと判断した理由を、数量の関係を表す図や基準量・比較量・割合の関係を基に説明する活動も考えられる。なお、基準量から14%長くなっている比較量を求める際には、114%を捉えることができていない 20×1.4 や 20×0.14 のような式を提示し、「 $\times 1.4$ 」や「 $\times 0.14$ 」の意味を問い直す活動も考えられる。

3 指導の改善のポイント（全体を通して）

新大分スタンダードによる授業改善

(1) 主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の適切な設定

めあて 付きたい力を身に付けさせるための、本時で目指す「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」で設定する。

課題 その時間に解決すべき事柄。児童に、問題文から解決方法や結果に見通しを持たせ、追究すべき事柄を明確にした「焦点化した問い」を設定する。

まとめ 本時の課題に対する答え・結論

振り返り めあてに対する振り返り。学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等が次につながられるような視点で設定する。

(2) 板書の構造化

児童の思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

(3) 習熟の程度に応じた指導（『個に応じた指導の手引き』参照 H29.3 大分県教育委員会）

本時における児童のつまずきを想定し、個に応じた指導や支援を講じる。

○ 机間指導による個別支援

○ 習熟度に応じた複数の問題プリントの作成

○ 学びの困難さに対する手立ての準備

(4) 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開の授業

知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等のバランスを重視し、単元の中で、既習の知識や技能、見方や考え方を活用し、問題解決の過程を児童が主体的に行うことができるような場面を設定する。

見通しをもち筋道立てて考え、表現する活動を重視した授業の充実

児童に筋道立てて考えたことを、過不足なく表現させる場面では、全国学力・学習状況調査「記述式」問題を参考に、説明に必要な要素を明確にして授業を行う。

事柄・事実の説明 計算の性質、図形の性質や定義、数量の関係の記述を求めること、表やグラフ等から見いだせる傾向や特徴を記述すること。

方法・手順の説明 問題を解決するための自分の考えや解決方法の記述を求めること、他者の考え方や解決方法を理解して、その記述を求めること。

理由の説明

ある事柄が成り立つことの原因や判断の原因の記述を求めること。「AだからBになる」のように、原因（A）及び結論（B）明確にして考え、それを記述すること。原因として取り上げるべき事柄が複数ある場合には、それらを全て取り上げて記述すること。

児童に「見通しをもち筋道立てて考え、表現する力」を身に付けさせるためには、日頃の授業の中で、児童が『説明の基本形』等を利用して説明することで、論理的な説明の組み立てに慣れることが大切である。

今年度の記述式問題【算数B③(2)】を使って授業を行う場合、次のような説明が考えられる。

説明の基本形（例）

- ①考え方（根拠）を示し方針をはっきりさせる。
- ②取り出した情報を整理し、計算等を行う。
- ③答えにつながる計算や説明を行う。
- ④答え（結論）を導き出す。

※ ①～④に基づいた説明ができるように発達段階に応じて指導を行うことが大切です。

【かずやさんの平均の求め方】

- ① 7 m をこえた部分の平均を求めます。
- ② $(52 + 31 + 54 + 20 + 43) \div 5 = 40$
- ③ 7 m に、求めた平均の 40 cm をたします。
- ④ 車が進んだきよりの平均は、7 m 40 cm です。



【解答例】

- ① 7m20 cm をこえた部分の平均を求めます。
- ② $(32 + 11 + 34 + 0 + 23) \div 5 = 20$
- ③ 7m20 cm に、求めた平均の 20 cm をたします。
- ④ 車が進んだきよりの平均は、7m40 cm です。

『説明の基本形』から、記述形式に基づいて解答を記述します。

児童がお互いで、説明を指摘し合ったり、見直したりする活動を充実させることが大切です。

『説明の基本形』については大分県教育委員会HPに掲載しています。

<http://kyouiku.oita-ed.jp/gimu/2017/03/post-98.html>

その他

- 指導教諭や学力向上支援教員、習熟度別指導推進教員等の優れた実践を広げる。
- 家庭での学習習慣を身に付ける適切な指導を行う。

国立教育政策研究所「全国学力・学習状況調査」資料を活用して下さい。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>